

STAR

汎用トレーラ

取扱説明書・部品表

製品コード

K55081

型 式 TMT4020

部品供給型式 TMT4020-01

製品コード

K55082

型 式 TMT5020S

部品供給型式 TMT5020S-01

部品ご注文の際は、必ず部品供給型式をご連絡ください。

“必読” 機械の使用前には必ず読んでください。

スター農機株式会社



安全に作業するために

安全に関する警告について

本機には、印付きの警告ラベルを貼付しています。安全上、特に重要な項目を示しています。警告を守り、安全な作業を行ってください。

警告ラベルについて



危険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性が高いことを示します。



警告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があることを示します。



注意

その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれがあることを示します。



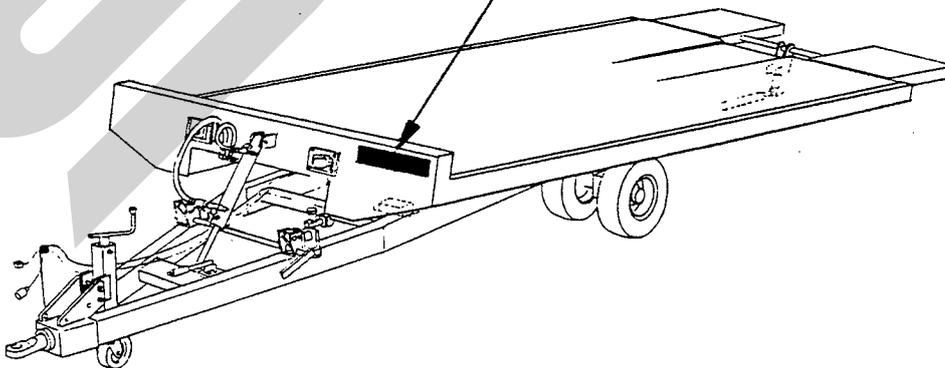
注意



本機を運転するときには、必ず取扱説明書をよくお読み下さい。

1. 作業に適した、だぶつきのない服装で行ってください。
2. 酒を飲んだとき、疲労、病気や怪我しているときは、作業をしないで下さい。子供には運転させないで下さい。
3. 本機を運転するときは、周囲の安全を確認して下さい。
4. 運転前には、必ず点検や調整をして下さい。
5. 点検や調整をするときは、必ずPTOなどの動力遮断や動力停止（エンジン、電源など）をしてから行って下さい。
6. 点検・調整で取り外したカバー類は、必ず元通りに取り付けて下さい。
7. 他人に本機を貸すときは、必ず「取扱説明書」をよく読んでから作業するようすすめて下さい。

部品番号 106164



— ラベルが損傷した時は —

警告ラベルは、使用者および周囲の作業員などへ危険を知らせる大事なものです。ラベルが損傷した時は、すみやかに貼り替えてください。

注文の際には、この図に示す **部品番号** をお知らせください。

安全操作上の注意点

ここに記載されている注意事項を守らないと、死亡を含む傷害を生じる恐れがあります。
作業前には、作業機およびトラクタの取扱説明書をよくお読みになり、十分に理解をしてからご使用ください。

作業前に

取扱説明書は製品に近接して保存を

▲注意

- 機械の取り扱いで分からない事があった時、取扱説明書を製品に近接して保存していないため、自分の判断だけで対処すると思わぬ事故を起こしケガをする事があります。
取扱説明書は、分からない事があった時にすぐに取り出せるよう、製品に近接して保存してください。

取扱説明書をよく読んで作業を

▲注意

- 取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領の不十分な理解のまま作業すると、思わぬ事故を起こす事があります。
作業を始める時は、製品に貼付している警告ラベル、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項、取扱要領を十分に理解してから行ってください。

こんな時は運転しないでください

▲警告

- 体調が悪い時、機械操作に不慣れな場合などに運転すると、思わぬ事故を起こす事があります。
次の場合は、運転しないでください。
 - 過労、病気、薬物の影響、その他の理由により作業に集中できない時。
 - 酒を飲んだ時。
 - 機械操作が未熟な人。
 - 妊娠している時。

服装は作業に適していますか

▲警告

- 作業に適さない服装で機械を操作すると、衣服の一部が機械に巻き込まれ、死亡を含む傷害をまねく事があります。
次に示す服装で作業してください。
 - 袖や裾は、だぶつきのないものを着用する。
 - ズボンや上着は、だぶつきのないものを着用する。
 - 帽子を着用する。
 - はちまき、首巻きタオル、腰タオルなどはしない。

機械を他人に貸す時は

▲警告

- 機械を他人に貸す時、取扱説明書に記載されている安全上の注意事項や取扱要領が分からないため、思わぬ事故を起こす事があります。
取扱い方法をよく説明し、取扱説明書を渡して使用前にはよく読むように指導してください。

機械の改造禁止

▲注意

- 機械の改造や、当社指定以外のアタッチメント・部品などを取り付けて運転すると、機械の破損や傷害事故をまねく事があります。
機械の改造はしないでください。
アタッチメントは、当社指定製品を使用してください。
部品交換する時は、当社が指定するものを使用してください。

エンジン始動・発進する時は

▲警告

- エンジンを始動する時、トラクタの横やステップに立ったまま行くと、緊急事態への対処ができず、運転者はもちろん周囲にいる人がケガをする事があります。
運転席に座り、周囲の安全を確認してから行ってください。
- エンジンを始動する時、主変速レバーを「N」（中立）にして行わないと、変速機が接続状態になっているため、トラクタが暴走し思わぬ事故を起こす事があります。
主変速レバーを「N」（中立）にして行ってください。
- 急発進するとトラクタ前輪が浮き上がる事があり、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。
周囲の安全を確認し、ゆっくりと発進してください。
- 室内で始動する時、排気ガスにより中毒になる事があります。
窓、戸などを開け、十分に換気してください。

作業機を着脱する時は

▲警告

- 作業機を連結するためにトラクタを移動させる時、トラクタと作業機の間に入っていると、挟まれてケガをする事があります。
トラクタと作業機の間に入らないでください。

▲注意

- 作業機をトラクタに連結する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 作業機をトラクタから切り離す時、駐車ブレーキをかけずに行うと、作業機が暴走して思わぬ事故を起こす事があります。切り離す時は、スタンドを接地させ、作業機の駐車ブレーキをかけてください。
- 連結するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故をまねく事があります。トラクタへフロントウエイトを取り付け、バランスを取ってください。

公道走行時は作業機の装着禁止

▲注意

- トラクタに作業機を連結して公道を走行すると、道路運送車輛法に違反します。トラクタに作業機を連結しての走行はしないでください。

移動走行する時は

▲危険

- 移動走行する時、トラクタのブレーキペダルが左右連結されていないと、片ブレーキになり、トラクタが左右に振られ横転などが起こり、思わぬ事故をまねく事があります。ほ場での特殊作業以外は、ブレーキペダルは左右連結して使用してください。

▲警告

- 電装コネクタとトレーラ側電源コードをトラクタに接続しないとブレーキが効かず、思わぬ事故を起こす事があります。電装コネクタとトレーラ側電源コードはトラクタに接続してください。
- トラクタに運転者以外の人を乗せると、トラクタから転落したり、運転操作の妨げになって、緊急事態への対処ができず、同乗者はもちろん、周囲の人および運転者自身がケガをする事があります。トラクタには、運転者以外の人を乗せないでください。
- 急制動・急旋回を行うと、運転者が振り落とされたり、周囲の人を巻き込んだり、思わぬ事故を起こす事があります。急制動・急旋回はしないでください。
- 運搬走行時、重心の位置が高くなり、坂道・凹凸地・カーブで速度を出しすぎると、転倒あるいは転落事故を起こす事があります。低速走行してください。
- 旋回する時、内輪差により周囲の人を作業機に巻き込み、ケガをさせる事があります。

周囲の人や障害物との間に十分な間隔を保ってください。

- 側面が傾斜していたり、側溝がある通路で路肩を走行すると転落事故を起こす事があります。路肩は走行しないでください。
- 高低差が大きい段差を乗り越えようとすると、トラクタが転倒あるいは横転し、ケガをする事があります。あゆみ板を使用してください。
- 作業機の上に人を乗せると、転落し、ケガをする事があります。作業機の上には、人を乗せないでください。

荷物を積載する時は

▲注意

- 過積載あるいは片荷積載をすると、旋回時、作業機が転倒し、ケガをする事があります。また、トラクタの操縦が不安定となり、思わぬ事故をまねく事があります。指定された最大積載量を超えないでください。

作業中は

作業する時は

▲警告

- 作業機をトラクタに連結しないで、積み込みあるいは荷降ろし作業を行うと、転倒や暴走などにより、思わぬ事故を起こす事があります。トラクタに連結させて行ってください。トラクタ及び作業機の駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止させ、主変速レバー、副変速レバー共、低速位置にいらしてから行ってください。
- 作業をする時、周囲に人を近づけると、機械に巻き込まれ、ケガをする事があります。周囲に人を近づけないでください。
- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで積み込み作業あるいは荷降ろし作業を行うと、積載するトラクタやコンバインなどが脱輪や転倒し、思わぬ事故を起こす事があります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 積み込み作業や荷降ろし作業をする時、アユミ上やボディー上でハンドル操作をすると、脱輪や転落など、思わぬ事故を起こす事があります。アユミおよび作業機ボディーに対し、まっすぐに移動ができないときは、もう一度やりなおしてください。

—トラクタから離れる時は—

▲警告

- トラクタから離れる時、傾斜地や凹凸地などに駐車すると、トラクタが暴走して思わぬ事故を起こすことがあります。平坦で安定した場所に駐車し、トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけて暴走を防いでください。

不調処置・点検・整備をする時

▲注意

- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こすことがあります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ボディをあげた状態のまま下にもぐったり、足を入れたりすると、不意に降下し、ケガをすることがあります。下に入る時は、ストップバルブを閉にして行ってください。
- 点検調整をする時、不意にトラクタが動きだし、思わぬ事故を起こすことがあります。エンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- 油圧の継手やホースに、ゆるみや損傷があると、飛び出る高圧オイルあるいはボディの急な降下で、ケガをすることがあります。補修もしくは部品交換してください。継手やホースを外す時は、油圧回路内の圧力を無くしてから行ってください。

も く じ



安全に作業するために

安全に関する警告について	……1	作 業 中 は	……3
作 業 前 に	……2	不調処置・点検・整備をする時	……4

1 トラクタへの装着

1 各部の名称とはたらき	……7	4 トラクタへの装着	……8
2 適応トラクタの範囲	……8	1. ドローバへの連結	……8
3 ステアの組立	……8	2. スタンドのたたみ方	……9
		3. 電装の接続	……9

2 運転を始める前の点検

1 運 転 前 の 点 検	…10	2 エンジン始動での点検	…11
1. トラクタ各部の点検	……10	1. トレーラの電装がトラクタと正しく連動するか	……11
2. 連結部の点検	……10	2. トレーラのブレーキがトラクタと正しく連動するか	…11
1) トラクタのドローバとヒッチカンの 連結部点検	……10	3 給油箇所一覧表	…11
2) 電装コネクタの点検	……10		
3. 製品本体の点検	……10		

3 作業の仕方

1 積 み 込 み 作 業	…12	3 荷 降 ろ し 作 業	…13
2 運 搬 作 業	…13	4 アユミの角度調整	…14

4 作業が終わったら

1 作 業 後 の 手 入 れ	…15	2 長 期 格 納 す る 時	…15
-----------------	-----	-----------------	-----

5 点検と整備について

1 電球の交換	…15	4 タイヤのローテーション	…16
2 油圧装置の調整方法	…15	5 点検整備一覧表	…17
3 ブレーキの調整方法	…16		

6 不調時の対応

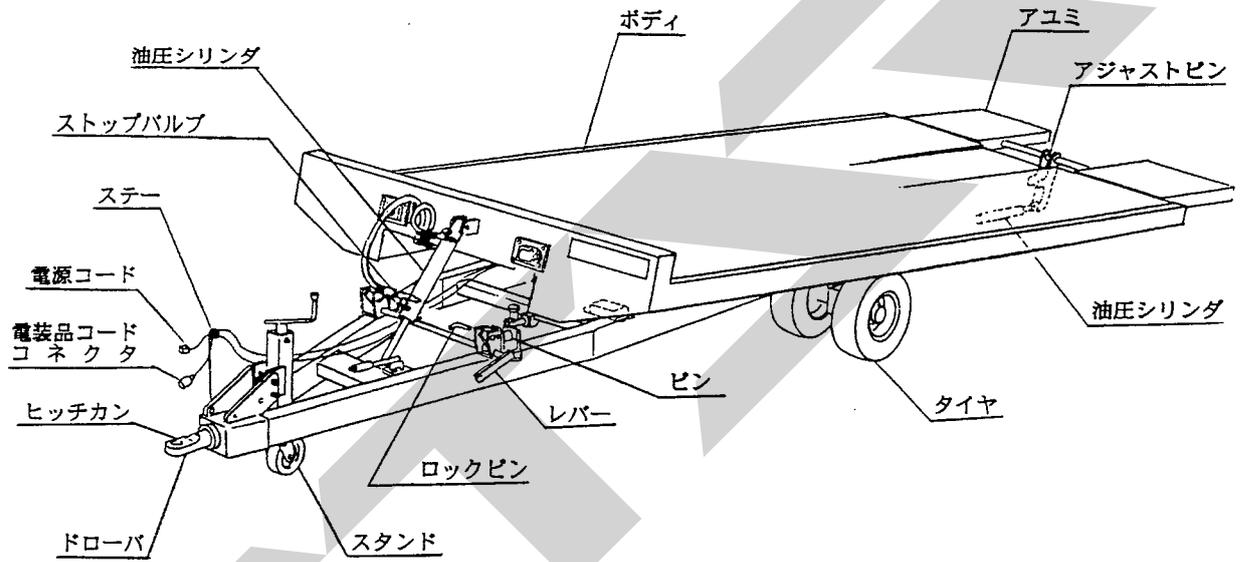
1 不調処置一覧表	…18
-----------	-----

7 部品表	……………19
-------	---------

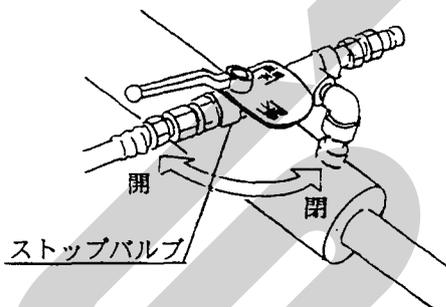
1 トラクタへの装着

適切な装着で安全な作業をしましょう。

1 各部の名称とはたらき



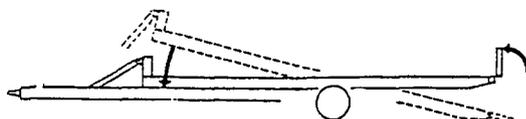
1. ヒッチカン：トラクタに連結し、けん引します。
2. アユミ：トラクタやコンバインの積み降ろしに使用します。
ボディに連動して昇降します。
3. スタンド：作業機をトラクタからはずしたときに使用します。高さ調整はハンドルで行います。
4. ピン：ボディをドロバに固定します。
5. ロックピン：ボディとドロバが固定された状態でピンをロックします。
6. 駐車ブレーキレバー：レバーを上にはき上げると駐車ブレーキが働き、解除するときは、レバー先端のボタンを押しながらレバーを下げます。
7. 連動ブレーキ：トラクタのブレーキをかけた際、トラクタのストップランプに連動して、トレーラのブレーキが働きます。
8. アジャストピン：ピンの差し換えとボルト;M20×300のネジ調整を行うことによりアユミ収納時の角度を変えることができます。
9. 油圧シリンダ：ボディとアユミの昇降速度調整に使用します。油圧回路は閉回路になっているのでトラクタ油圧は必要ありません。
10. ストップバルブ：ボディ昇降時の油圧回路の開閉及び昇降速度の調整に使用します。



※ ボディ傾斜：ボディが傾斜しはじめるのと連動してアユミが下がり、積み込み・荷降ろし状態になります。



※ ボディ水平：ボディが水平になりはじめるのと連動してアユミが上がり、運搬状態になります。



2 適応トラクタの範囲

本製品は、適切なトラクタとの装着により的確に性能を発揮できるよう設計されています。

不適切なトラクタとの装着によっては本製品の耐久性に著しく影響を及ぼしたり、トラクタの運転操作に著しい悪影響を及ぼすことがあります。

この製品の最大積載量及び適応トラクタ馬力は次のとおりです。

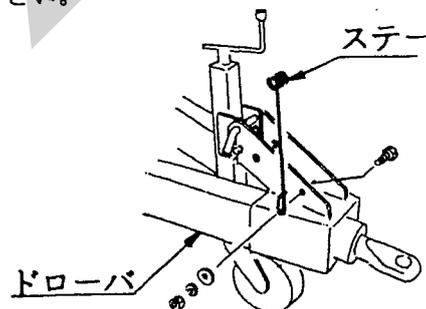
型 式	最大積載量	適応トラクタ馬力
TMT4020	4000kg	50Ps以上
TMT5020S	5000kg	

取扱い上の注意

指定された最大積載量を超えた積載物を運搬した場合は、保証の対象にはなりませんのでご注意ください。

3 ステアの組立

- (1) ステアをドロバにボルトで固定してください。
- (2) 電装品コードをステアのリングに通してください。



4 トラクタへの装着

1. ドロバへの連結

▲ 警告

- 作業機を連結するためにトラクタを移動させる時、トラクタと作業機の間に入ると、挟まれてケガをすることがあります。トラクタと作業機の間に入らないでください。

▲ 注意

- 作業機をトラクタに連結する時、傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタが不意に動き出し、思わぬ事故を起こすことがあります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。

● 連結するトラクタによっては、前輪荷重が軽くなり、操縦が不安定となって、思わぬ事故を起こすことがあります。
トラクタへフロントウエイトを取付け、バランスを取ってください。

- (1) トラクタのドロバの高さに作業機のヒッチの高さを合わせてください。
(スタンドのハンドルで調整してください。)
- (2) トラクタのエンジンを始動して、トラクタを後進させ、ドロバの連結点に作業機のヒッチカンの穴をあわせて、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。
- (3) トラクタ付属のヒッチピンを通し連結してください。

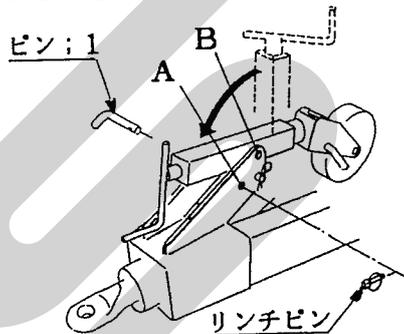
取扱い上の注意

ヒッチピンには抜け止めのため、リンチピンあるいはベータピンを取り付けてください。

- (4) スタンドのハンドルを回してスタンドの車輪をいっぱいまで上げ、スタンドをたたんでください。
- (5) トレーラ側の電装コネクタと電源コードをトラクタ側のコネクタに装着してください。

2. スタンドのたたみ方

- (1) スタンドのハンドルを回して車輪をいっぱいまで上げてください。
- (2) スタンドのピン;1をAの穴から抜きスタンドを90°回転させてください。
- (3) ピンをBの穴に挿入し抜け止めにリンチピンを差してください。



取扱い上の注意

トラクタの外部油圧は使用しませんので、油圧ホースはトラクタの外部油圧取り出し口接続しないでください。

3. 電装の接続

▲ 警告

● 電装コネクタとトレーラ側電源コードをトラクタに接続しないと、ブレーキが効かず思わぬ事故を起こすことがあります。
電装コネクタとトレーラ側電源コードはトラクタに接続してください。

(1) 電源コードの接続

▲ 注意

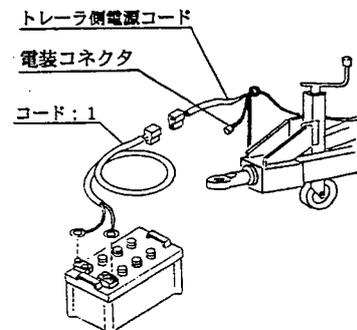
● バッテリーからバッテリーケーブルを外す時は(-)側から外し、取り付ける時は(+)側から行ってください。
もし、逆にすると作業中工具がトラクタに接触した場合、火花が生じ、火災事故の原因になります。

- ① コード; 1 (電源コード)をバッテリーターミナルへ取り付けてください。
コード; 1 (電源コード)のターミナルは、トラクタのバッテリーターミナルを止めているボルトと共締めにしますので、バッテリーから⊖、⊕共にコードを外してください。
コードを外すときは、⊖側から外してください。
トラクタのバッテリーコードのナットを外し、コード; 1 (電源コード)のターミナルを取り付け、ナットを締め付けてください。
バッテリーターミナルへ取り付ける時は、⊕側から取り付けてください。(コードは、白色が⊕、黒色が⊖です。)

取扱い上の注意

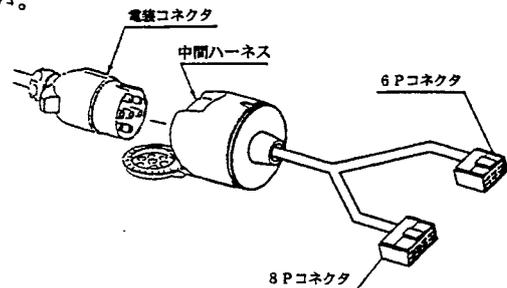
● コード; 1 (電源コード)をバッテリーに取り付ける時、コード; 1をトレーラ側の電源コードに接続した状態で行うと、誤作動する事があります。
トレーラ側の電源コードから切り離れたコード; 1単体で行ってください。

- ② コード; 1のソケットとトレーラ側の電源コードのソケットを接続してください。



(2) 電装コネクタの接続

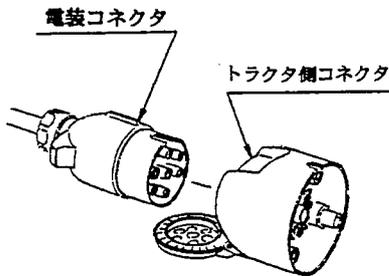
電装はトラクタとコネクタで接続します。
作業機には、6 Pコネクタ、又は8 Pコネクタに対応した中間ハーネスを装備しています。
トラクタ側の外部電装品取り出し口が、6 Pコネクタ、又は8 Pコネクタで装備されている場合は、中間ハーネスを使用して接続してください。



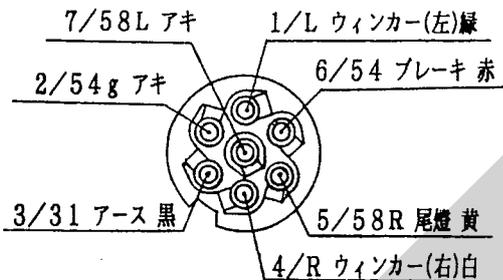
トラクタ側に外部電装品取り出し口が装備されていない場合は、トラクタ側コネクタの電気配線が必要となります。

取扱い上の注意

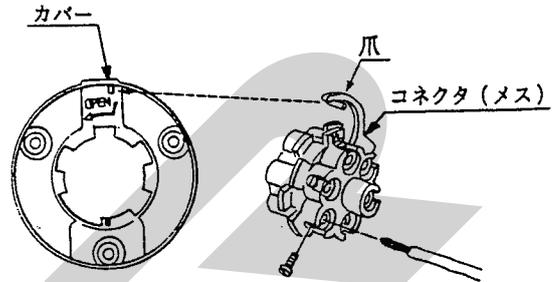
トラクタに電装品の結線をする時、エンジンキーをOFFにしないで行くと、ショートする事があります。
エンジンキーをOFFにして行ってください。



作業機の電気配線は下図の通りです。



- ① トラクタ側コネクタのキャップを持ち上げ、トレーラ側コネクタから抜いてください。
- ② トラクタ側コネクタの爪をはずし、反時計まわりにまわすとコネクタがカバーからはずれません。
- ③ マイナス(-)ドライバーでネジを緩め、それぞれの端子にコードを配線し、締め付けてください。
- ④ 再度、カバーにはめ込み、時計回りにまわし、爪を掛けてください。



- ⑤ コネクタ(メス)はトレーラと連結したとき接続しやすい場所に取り付けてください

2 運転を始める前の点検

機械を調子よく長持ちさせるため、作業前に必ず行いましょう。

1 運転前の点検

1. トラクタ各部の点検

トラクタの取扱い説明書に基づき点検を行ってください。

2. 連結部の点検

(1) トラクタのドローバとヒッチカンの連結部点検

- ① ヒッチピンのリンチピンまたはベータピンは確実に挿入されているか。
- ② スイングドローバはしっかりと固定されているか。
- ③ 不具合が見つかった時は、「1-4-1 ドローバへの連結」の説明に基づき不具合を解消してください。

(2) 電装コネクタの点検

- ① トラクタの電装コネクタと確実に接続されているか。

- ② 電装コードに余分なたるみはないか、また、適度な余裕があるか。

3. 製品本体の点検

- (1) シャジク取付ボルトにゆるみはないか。
- (2) ハブボルト・ハブナットにゆるみはないか。
- (3) 油圧系統に油漏れはないか。
- (4) 各部の給油、注油、給脂は十分か。
- (5) タイヤの亀裂、損傷がないか。
- (6) タイヤとタイヤの間に石、その他の異物がはさまっていないか。
- (7) タイヤの溝深さは適正か。また、異常摩耗していないか。
- (8) タイヤの空気圧は十分か。

型式	タイヤサイズ	空気圧
TMT4020	6.00-9-10PR	680KPa
TMT5020S	6.50-10-10PR	(7.0kg/cm ²)

2 エンジン始動での点検

1. トレーラの電装がトラクタと正しく連動するか

トラクタのブレーキ、ウィンカーの操作をして、トレーラのテールランプが正しく連動するか確認してください。

不調箇所が見つかった時は、「6-1 不調処置一覧表」に基づき処置してください。

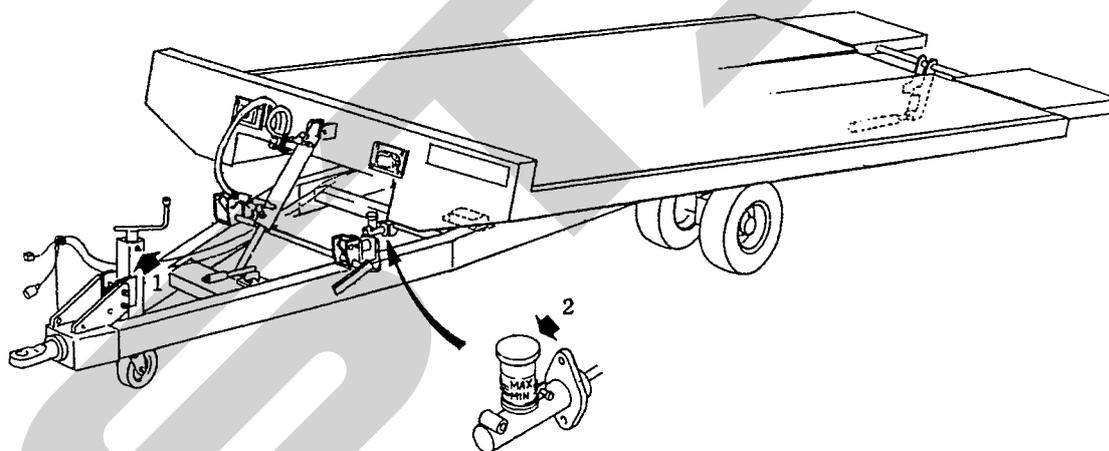
2. トレーラのブレーキがトラクタと正しく連動するか

トラクタのブレーキを操作して、トレーラのブレーキが正しく連動するか確認してください。

3 給油箇所一覧表

図は給脂箇所を示します。表に基づき給脂してください。

No.	給脂箇所	箇所	潤滑油の種類	給油間隔	備考
1	スタンド	1	グリース	使用ごと	給脂
2	マスタシリンダ	1	ブレーキオイル BF-3	使用ごと	補充



3 作業の仕方

1 積み込み作業

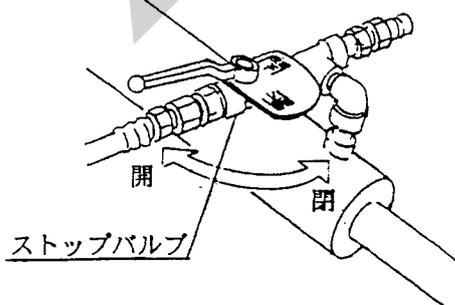
▲ 警告

- 作業機をトラクタに連結しないで、積み込み作業を行うと、作業機の転倒や暴走などにより思わぬ事故を起こす事があります。トラクタに連結させて行ってください。トラクタ及び作業機の駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンを停止させ、主変速レバー、副変速レバー共、低速位置に入れてから行ってください。
- 過積載あるいは片荷積載をすると、旋回時に作業機が転倒し、ケガをする事があります。また、トラクタの操縦が不安定となり、思わぬ事故をまねく事があります。指定された最大積載量を超えないでください。

▲ 注意

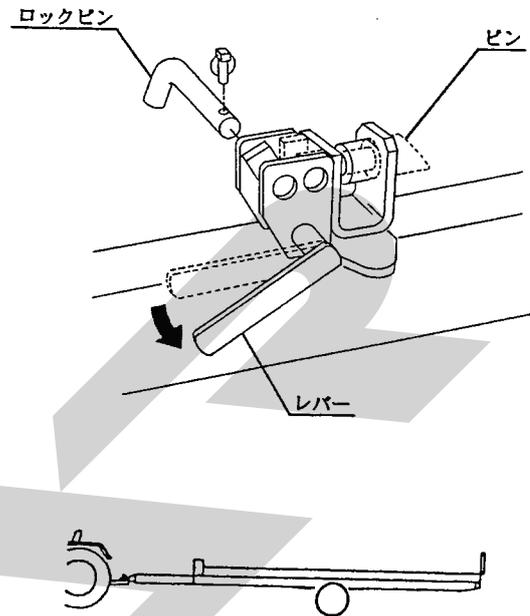
- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで積み込み作業を行うと、積載するトラクタやコンバインなどが脱輪や転倒し、思わぬ事故を起こす事があります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 積み込み作業をする時、アユミ上やボディー上でハンドル操作をすると、脱輪や転落など、思わぬ事故を起こす事があります。アユミおよび作業機ボディーに対し、まっすぐに積み込みができないときは、もう一度やりなおしてください。

- (1) トラクタのエンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてください。
- (2) トレーラ前方のストップバルブを全開にしてください。

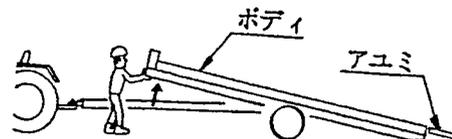


- (3) ロックピンを抜いてください。外したピンはドローバに取り付けておいてください。

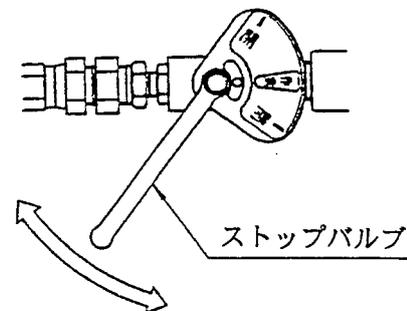
- (4) レバーを下げ、ピンを抜いてください。



- (5) フロント部を持ち上げ、ボディを傾斜させます。その時アユミもいっしょにさがります。

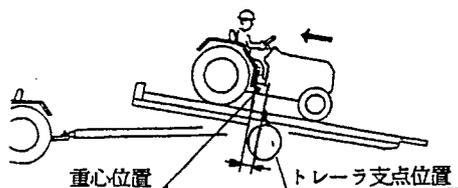


- (6) ストップバルブを「作業」の位置にしてください。

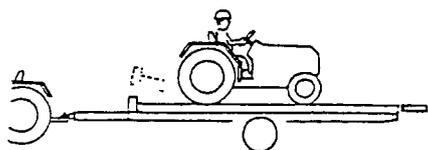


- (7) 積載するトラクタやコンバインを積み込んでください。積み込みはできるだけ後進でゆっくり積み込んでください。

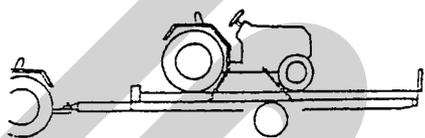
- (8) 積載するトラクタやコンバインの重心位置がトレーラの支点位置を越えるとボディが水平になりはじめ、連動してアユミが上がりはじめます。



- (9) ボディが水平になりはじめたら一度トラクタやコンバインを停止してください。



- (10) 完全に水平になったら、10~20cmドロバ側に移動し、停止してください。エンジンをとめ、駐車ブレーキをかけ、ギヤを1速に入れてください。
- (11) ピンがボディにかかっていることを確認してロックピンを挿入し、抜け止めにリンチピンを差してください。
- (12) ストップバルブを全閉にしてください。
- (13) ロープフックを利用して積み荷をしっかりとしばりボディに固定してください。



取扱い上の注意

作業機のヒッチ点荷重は最大750kgに設定されています。ヒッチ点荷重が設定最大値をオーバーしますとトラクタの前後バランスが悪くなり、走行が不安定になります。設定値をオーバーしないでください。

2 運搬作業

警告

- 運搬走行時、重心位置が高くなり、坂道・凹凸地・カーブで速度を出しすぎると、転倒あるいは転落事故を起こすことがあります。低速走行してください。

3 荷降ろし作業

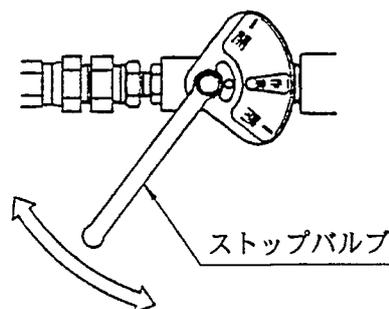
警告

- 作業機をトラクタに連結しないで、荷降ろし作業を行うと、作業機の転倒や暴走などにより、思わぬ事故を起こすことがあります。トラクタに連結させて行ってください。トラクタ及び作業機の駐車ブレーキをしっかりとかけ、エンジンを停止させ、主変速レバー、副変速レバー共、低速位置に入れてから行ってください。

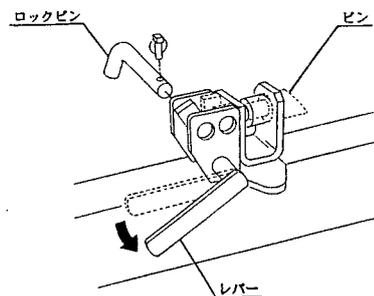
注意

- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで荷降ろし作業を行うと、積載するトラクタやコンバインなどが脱輪や転倒し、思わぬ事故を起こすことがあります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- 荷降ろし作業をする時、アユミ上やボディー上でハンドル操作をすると、脱輪や転落など、思わぬ事故を起こすことがあります。アユミおよび作業機ボディーに対し、まっすぐに移動ができないときは、もう一度やりなおしてください。

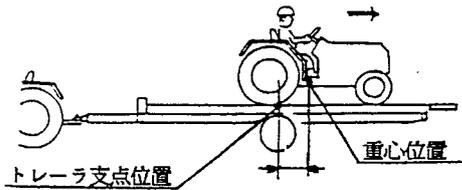
- (1) トラクタのエンジンをとめ、トラクタ及び作業機の駐車ブレーキをかけてください。
- (2) 主変速レバー、副変速レバー共、低速位置に入れてください。
- (3) しばったロープをほどいてください。
- (4) ストップバルブを「作業」の位置にしてください。



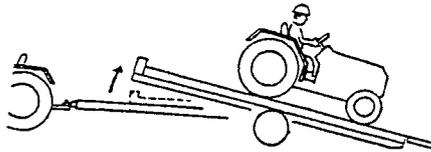
- (5) ロックピンを抜いてください。はずしたピンはドロバに取り付けておいてください。
- (6) レバーを下げ、ピンを抜いてください。



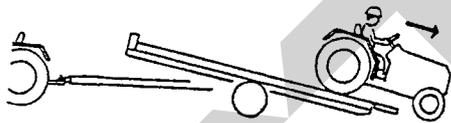
- (7) 積載したトラクタやコンバインをゆっくり動かしてください。



- (8) 積載したトラクタやコンバインの重心位置がトレーラの荷台支点位置を越えると、ボディが傾斜し、アユミがさがりはじめます。その位置で一度トラクタを停止してください。



- (9) アユミが地面についたら、再び、積載したトラクタやコンバインを動かし、トレーラから降ろしてください。



- (10) ストップバルブを全開にしてください。
(11) アユミを持ち上げ、ボディを水平にします。



- (12) ピンがボディに掛かっていることを確認してロックピンを挿入し、抜け止めにリンチピンを差してください。

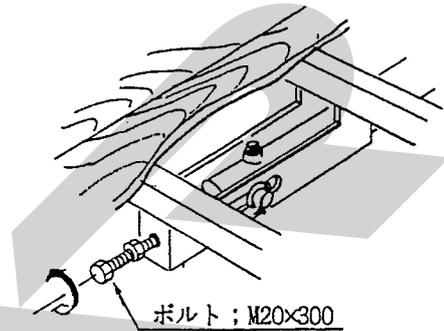


4 アユミの角度調整

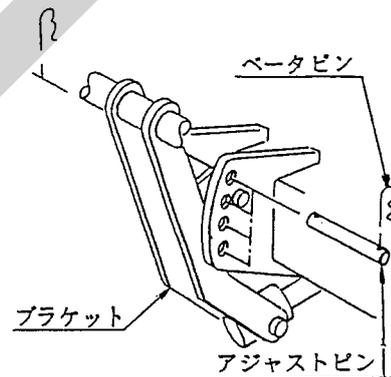
積み込むトラクタやコンバインによっては、アユミが上まで上がっていると、じやまな場合や重心移動ができない場合があります。

その場合はアユミの角度を30°～90°まで、4段階に調整できます。

- (1) ボディはドロワーに固定した状態で、アユミ側のシリンダを押しているボルト;M20×300をゆるめてください。



- (2) アユミが降下しはじめますので所望の角度の位置にアジャストピンを入れ替え、抜け止めにベータピンを差してください。



- (3) ブラケットがアジャストピンにあたり、アユミがガタつかなくなるまでボルト;M20×300をしめ、ナットで固定してください。
(4) ロックピン及びピンをはずし、ボディの上げ降ろしをして異常がないことを確認してください。

4 作業が終わったら

1 作業後の手入れ

- (1) ボルト、ナット、ピン類の緩み、脱落がないか。又、破損部品がないか確認してください。異常があれば、ボルトの増締め、部品の交換をしてください。
- (2) トラクタから作業機をはずす時は、スタンドをたててから行ってください。また、電装品のコネクタも忘れずにはずしてください。

2 長期格納する時

- (1) 機械各部の清掃をして下さい。
- (2) 摩耗した部品、破損した部品は、交換してください。

- (3) 「2-3 給油箇所一覧表」に基づき、油脂を補給して下さい。また、電装コネクタの端子には市販の防錆剤をスプレーして下向きに保管してください。
- (4) 塗装損傷部を補修塗装、または、油を塗布し、さびの発生を防いでください。
- (5) 地盤のかたい平坦な場所に保管してください。やむをえず傾斜のある場所に保管する場合は、オプションの車輪止めを購入して使用してください。
- (6) 格納は風通しの良い屋内に保管してください。
- (7) やむをえず屋外に保管する時は、シートをかけてください。

5 点検と整備について

調子よく作業するために、定期的に行いましょう。

機械の整備不良による事故などを未然に防ぐために、「点検整備一覧表」に基づき、各部の点検整備を行い、機械を最良の状態、安心して作業が行えるようにしてください。

1 電球の交換

テールランプの電球を交換する際はレンズを取り外して行ないます。

電球は当社推奨の規格を使用してください。

	定 格	スタン-品番(参考)
ウィンカー	12V 21W S25	BP4575B
尾 灯	12V 21W/5W S25	BP4875B
制 動 灯		

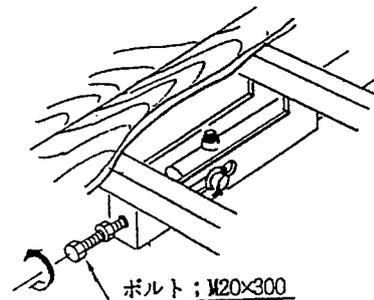
2 油圧装置の調整方法

取扱い上の注意

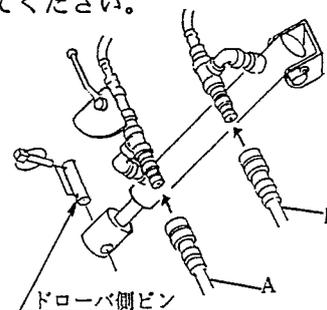
油圧装置は工場出荷時に調整しています。油漏れや油圧部品の交換等のトラブルが発生したとき以外はいじらないでください。

- (1) ストップバルブは全開にしてください。
- (2) ボディは水平状態でロックしてください。
- (3) アジャストピンをはずし、アユミ昇降用シリンダを押ししているボルト;M20×300をいっぱいにゆるめ、アユミを下げてください。

- (4) 油モレの修理や油圧部品の交換を実施してください。



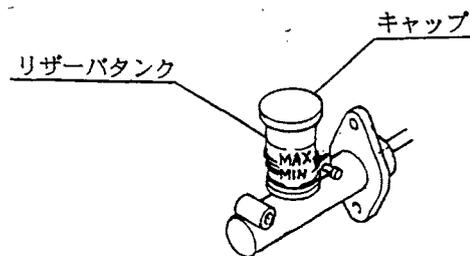
- (5) ボディ昇降用のシリンダのドローバ側のピンをはずしてください。



- (6) 油圧カブラのキャップをはずし、別の油圧ホースでトラクタの複動用カブラと接続してください。
- (7) トラクタのエンジンを始動してください。
- (8) トラクタの油圧レバーを操作してシリンダを3~4回伸縮し、エアを完全に除去してください。
- (9) 両方のシリンダが伸びきった状態でストップバルブを全閉にしてください。

- (10) トラクタの油圧レバーを操作して前側のシリンダを完全に縮めてください。
- (11) トラクタのエンジンを止め、A側の油圧ホースをはずし、ストップバルブを全開にしてください。
- (12) (5) ではなくした油圧シリンダを取り付けてください。
- (13) アユミを下方方向にひっぱりながらトラクタの油圧レバーを操作してアユミを5°程度下げてください。
- (14) B側の油圧ホースをカブラからはずし、A・B側ともカブラキャップをはめてください。
- (15) アジャストピンを取付け、ブラケットがピンに当たりアユミがガタつかなくなるまでボルト;M20×300をしめ、ナットで固定してください。
- (16) レバーを下げ、フックをはずし、ボディの上げ降ろしをして、異常がないか確認してください。

- (2) ブレーキオイルを補充し、キャップをしっかりとはめ込んでください。

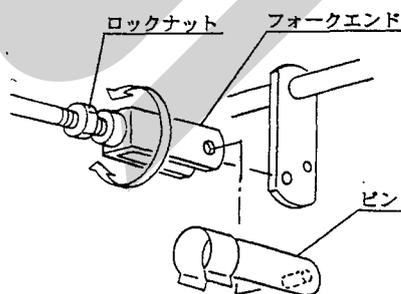
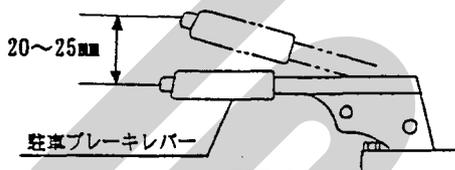


3 ブレーキの調整方法

1. 駐車ブレーキ

駐車ブレーキレバーを解除した状態でレバーの遊び量が20～25mmになるように調整してください。

- (1) 駐車ブレーキレバーを押し下げた状態で駐車ブレーキロッドのロックナットをゆるめ、フォークエンドのピンをはずします。
- (2) 駐車ブレーキレバー先端の遊び量が20～25mmになるようフォークエンドをまわし、フォークエンドのピンを取り付け、ロックナットを締め付け固定します。



2. マスタシリンダ

マスタシリンダのリザーバタンクに記してあるMINの線よりブレーキオイルの液面が下がったときは、MAXの線をこえないようにブレーキオイルを補充してください。

- (1) リザーバタンクのキャップをはずしてください。

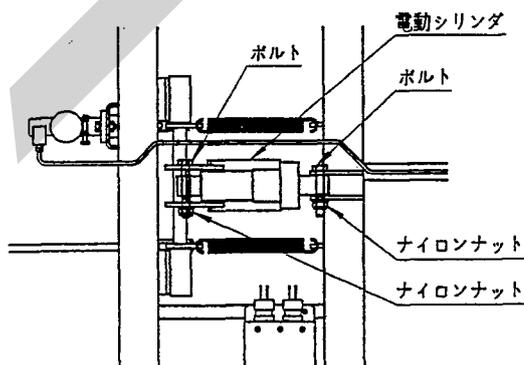
3. 電動シリンダ

本作業機の連動ブレーキは、トラクタのテールランプに連動して電動シリンダが伸縮し、ブレーキが作動します。

ブレーキの作動時、電動シリンダの作動音が聞こえます。作動音の最後にカタカタという音が数回鳴りますが異常ではありません。このカタカタという音が、電動シリンダの作動中全体にわたって鳴り出したら電動シリンダの寿命です。

ブレーキが効かなくなりますので、新しい電動シリンダと交換してください。

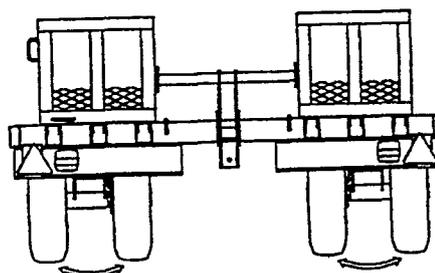
- (1) ナイロンナットをゆるめ、ボルトを抜き取り、電動シリンダを取り外してください。
- (2) 新しい電動シリンダを取り付け、ボルトを通し、ボルトがガタつかなくなるまでナイロンナットを締めてください。



4 タイヤのローテーション

本作業機は内側の車輪にブレーキを装備していますので、内側のタイヤは外側のタイヤより早く摩耗します。

定期的(1シーズン毎)に内側のタイヤと外側のタイヤを入れ替えることで内側2輪のみの早期摩耗を防ぐことができます。



5 点検整備一覧表

▲ 注意

- 点検調整する時、不意にトラクタが動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。エンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。
- ボディをあげた状態のまま下にもぐったり、足を入れたりすると、不意に降下し、ケガをする事があります。下に入る時は、ストップバルブを閉にして行ってください。
- 油圧の継手やホースに、ゆるみや損傷があると、飛び出る高圧オイルあるいはボディの急な降下で、ケガをする事があります。補修もしくは部品交換してください。継手やホースを外す時は、油圧回路内の圧力を無くしてから行ってください。

時 間	点 検 項 目	処 置
新品使用 1 時間	全ボルト・ナットのゆるみ	増し締め
作業前 作業後	①機械の清掃 ②油圧系統油漏れ ③タイヤ空気圧 ④ボルト・ナット・ピン類のゆるみ、脱落	継手部はシールで補修 680 KPa (7.0 kg/cm ²) 増し締め、部品補給
シーズン終了後	①破損部 ②各部の清掃 ③塗装損傷部 ④回動支点、ピン等の摩耗	補修 塗装または油塗布 部品交換

6 不調時の対応

エンジンをとめてから点検してください。

▲ 注意

- 点検調整する時、不意にトラクタが動き出し、思わぬ事故を起こす事があります。エンジンをとめ、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
- 傾斜地や凹凸地または軟弱地などで行うと、トラクタや作業機が不意に動き出して、思わぬ事故を起こす事があります。平坦で地盤のかたい所で行ってください。

- ボディをあげた状態のまま下にもぐったり、足を入れたりすると、不意に降下し、ケガをする事があります。下に入る時は、ストップバルブを閉にして行ってください。
- 油圧の継手やホースに、ゆるみや損傷があると、飛び出る高圧オイルあるいはボディの急な降下で、ケガをする事があります。補修もしくは部品交換してください。継手やホースを外す時は、油圧回路内の圧力を無くしてから行ってください。

1 不調処置一覧表

症 状	原 因	処 置
走行中ハンドルを取られる ふらつく	片荷になっている タイヤのパンク シャジク、ハブボルトのゆるみ 積荷のしぼり方が不十分 タイヤの空気圧が低い	<ul style="list-style-type: none"> ・左右均等になるよう積み直しをする ・パンク修理する ・増しじめる ・しぼりなおす ・空気圧を上げる
ボディの昇降スピードが 制御できない	ストップバルブ不良 油圧系統にモレがある	<ul style="list-style-type: none"> ・部品交換 ・修理
ブレーキが片効きする	片荷になっている タイヤのパンク タイヤの空気圧が均等でない	<ul style="list-style-type: none"> ・左右均等になるよう積み直しをする ・パンクを修理する ・空気圧を均等にする
ブレーキが効かない	油圧系統にモレがある。 ブレーキライニングシューの摩耗 ブレーキ内の油分・水分の混入 ブレーキオイルの不足 コードの接続不良又は断線 コントロールボックスの不良 電動シリンダの不良	<ul style="list-style-type: none"> ・修理 ・ブレーキライニングシューの交換 ・ブレーキドラム内の清掃又は、部品交換 ・ブレーキオイルの補充 ・補修又は部品交換 ・部品交換 ・部品交換

機械の調子が悪いとき、「6-1 不調処置一覧表」に基づき点検、処置しても、なお不具合があるときは、下記の点を明確にしてお買い上げいただいた販売店、農協、お近くの当社支店までご連絡ください。

<連絡していただきたい内容>

- 型式名と製造番号
- ご使用状況は？
(どんな作業をしていたときに)
- どのくらい使用されましたか？
(約□□時間使用後)
- 不具合の発生したときの状況をできるだけ詳しくお教えてください。

7 部 品 表

部品のご注文について

1. 部品ご注文の際は、下記項目をご連絡ください。

- ①製品名
- ②部品供給型式（型式）
- ③部品名称（部品表を参照してください。）
- ④部品番号（部品表を参照してください。）
- ⑤個 数（部品表を参照してください。）

※部品供給型式は取説・部品表表紙および本体に貼付のネームプレートに表示しています。

2. 部品名称欄に「付」と表示している部品には、該当見出番号の部品が含まれております。

例

見出番号	部品番号	部品名称	個数
1	92602	シャフト  2付	2
2	ONAS6	グリスニップル:A-M6×1F	6

このシャフトには、見出番号2のグリスニップルが取り付けられている事を示します。

3. 使用型式により部品番号や個数が異なる場合は、部品名称欄に注記していますのでご注意ください。

4. ボルト・コネジ・ナット類の部品番号末尾に記載されている英文字は以下のことを表しております。

(例) B Z 0 8 1 5 A (G)

└──────────┬──┘ (メッキ仕上げ)

- A ; ナット・スプリングワッシャ付
- D ; ナット2個付
- N ; ナット付
- P ; ワッシャ付
- W ; スプリングワッシャ付

5. 個数欄の 、は、以下のことを表しております。

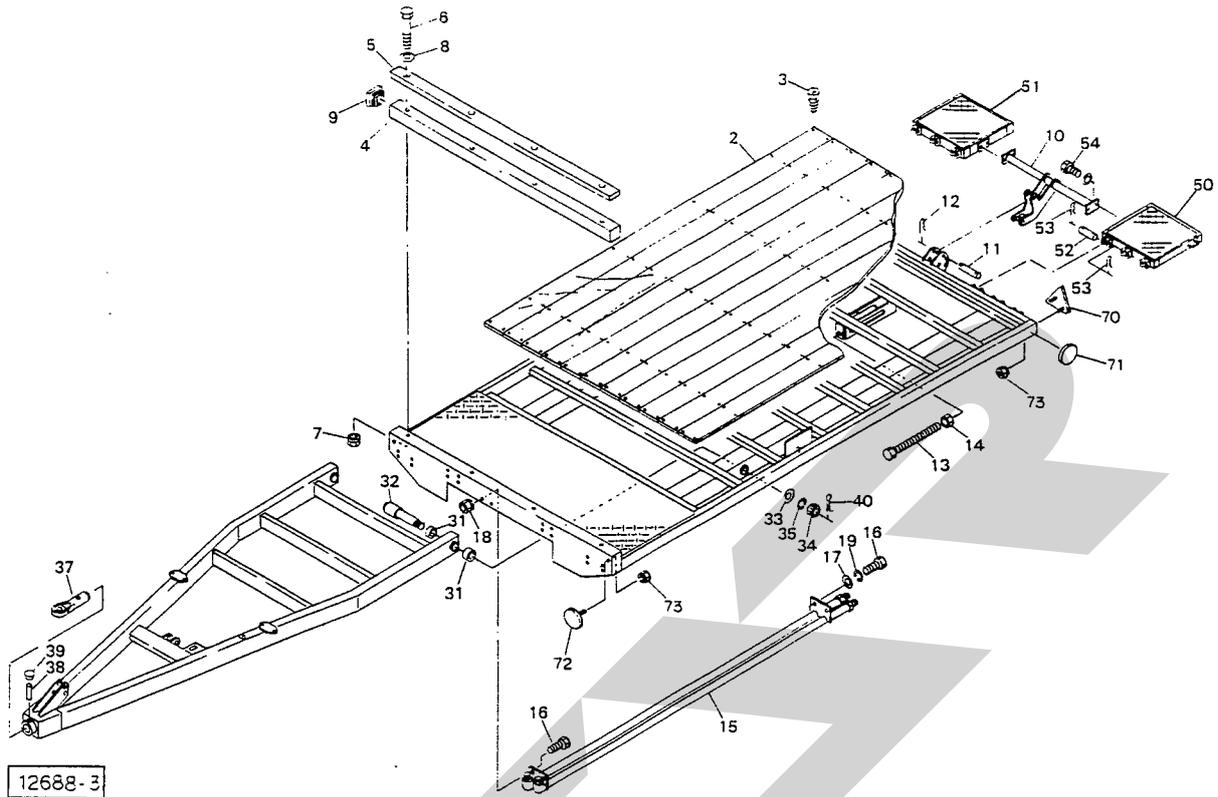
… シムなど、組み込まれている個数が製品個々により異なる部品

… アッセイ品に含まれる部品で単品では供給しない部品

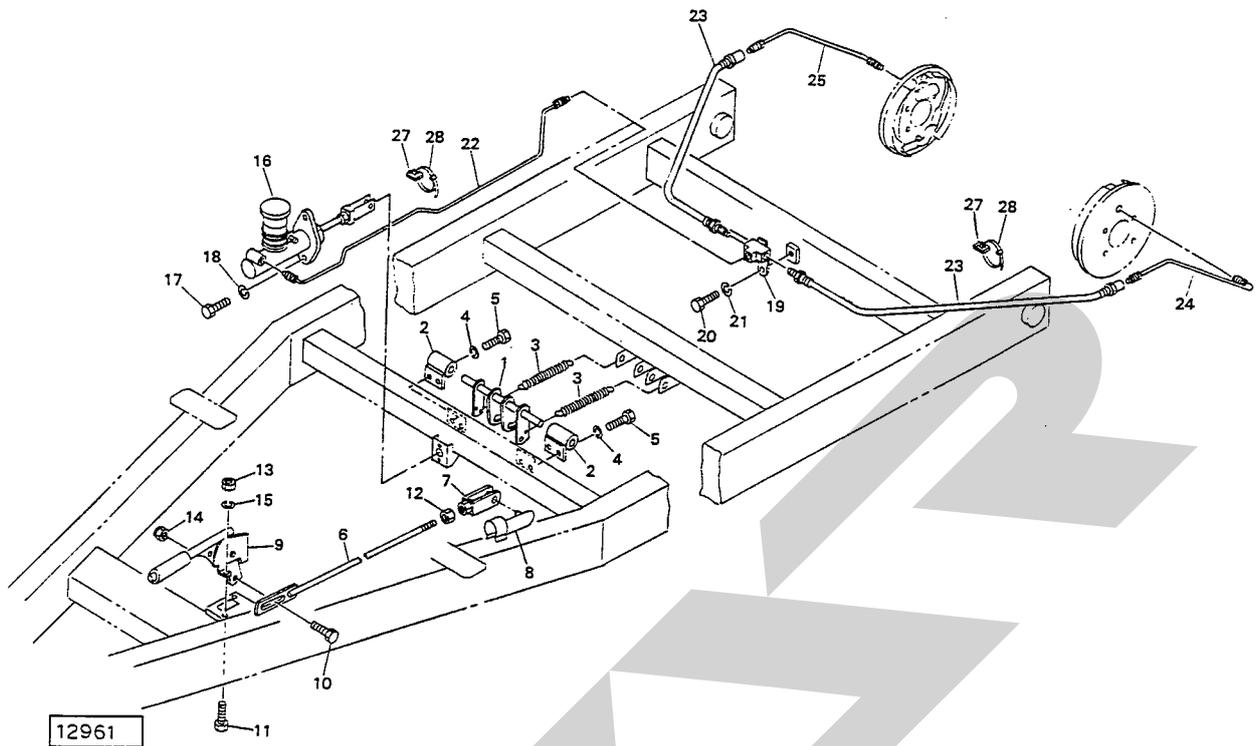
補修部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限内であっても、特殊部品については納期などをご相談させていただく場合もあります。

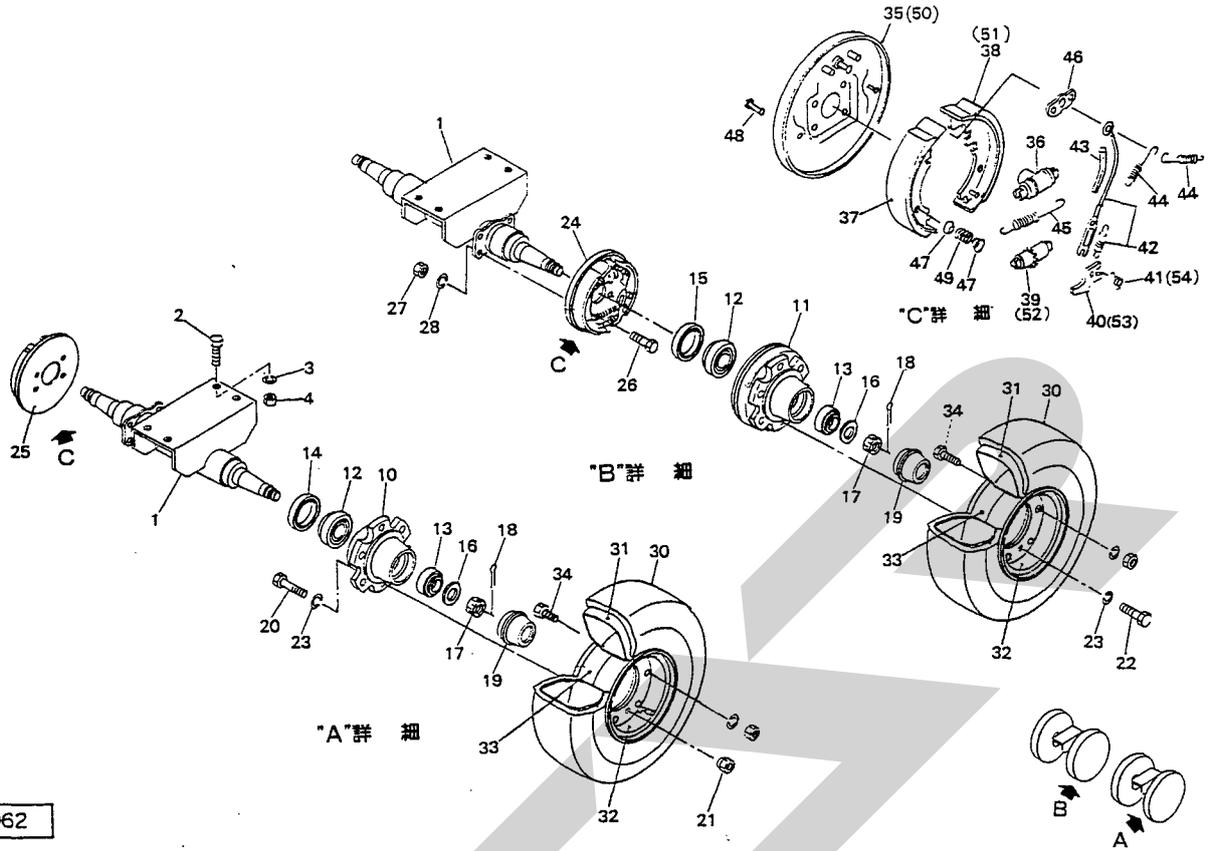
補修部品の供給は原則的には上記の供給年限で終了しますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合は納期および価格についてご相談させていただきます。



見番号	部品番号	部品名称	個数	見番号	部品番号	部品名称	個数
2	107131	ユカイタ	1	37	78717	ヒッチカン	1
3	TX0660G	十字穴付タッピンネジ(サ2種) ; M6×60	88	38	78718	ピン	1
				39	MS17	穴用メクラキャップ; φ17	1
4	107132	パイプ	1	40	PC5036G	ワリピン; 5×36	2
5	107133	バンパ	1				
6	BZ10160G	ボルト; M10×160(8.8)	4	50	107109	ブリッジ; L	1
7	NP10G	スプリングナット; M10	4	51	107110	ブリッジ; R	1
8	44098	ワッシャ; 10	4	52	107097	ピン; φ16×104	6
9	107218	キャップ; 100	2	53	00087	ベータピン; 16×2.3	12
10	107134	ブラケット	1	54	BZ1220WG	ボルト; M12×20(8.8)	4
11	107096	ピン; φ16×140	2				
12	00087	ベータピン; 16×2.3	4	70	00930	ハンシャキ; R-150TR ⑦73付	2
13	BAAZ20300G	ボルト; M20×300(8.8)(全ネジ)	1	71	00933	ハンシャキ; R-60CIS ⑦73付	2
14	NZ20G	ナット; M20(8)	1	72	00934	ハンシャキ; Y-60CI ⑦73付	2
15	107135	パイプ	1	73	NP05G	スプリングナット; M5	6
16	BZ1020G	ボルト; M10×20(8.8)	4				
17	WRA10G	ワッシャ; M10	2				
18	NP10G	スプリングナット; M10(8)	2				
19	WSA10G	Sワッシャ; M10	2				
31	KBB45500A	ドライベアリング ; KBB4550-0A	4				
32	107157	シャフト	2				
33	WRA30G	ワッシャ; M30	2				
34	00713	キャスルナット; M30×1.5	2				
35	WS30G	Sワッシャ; M30	2				



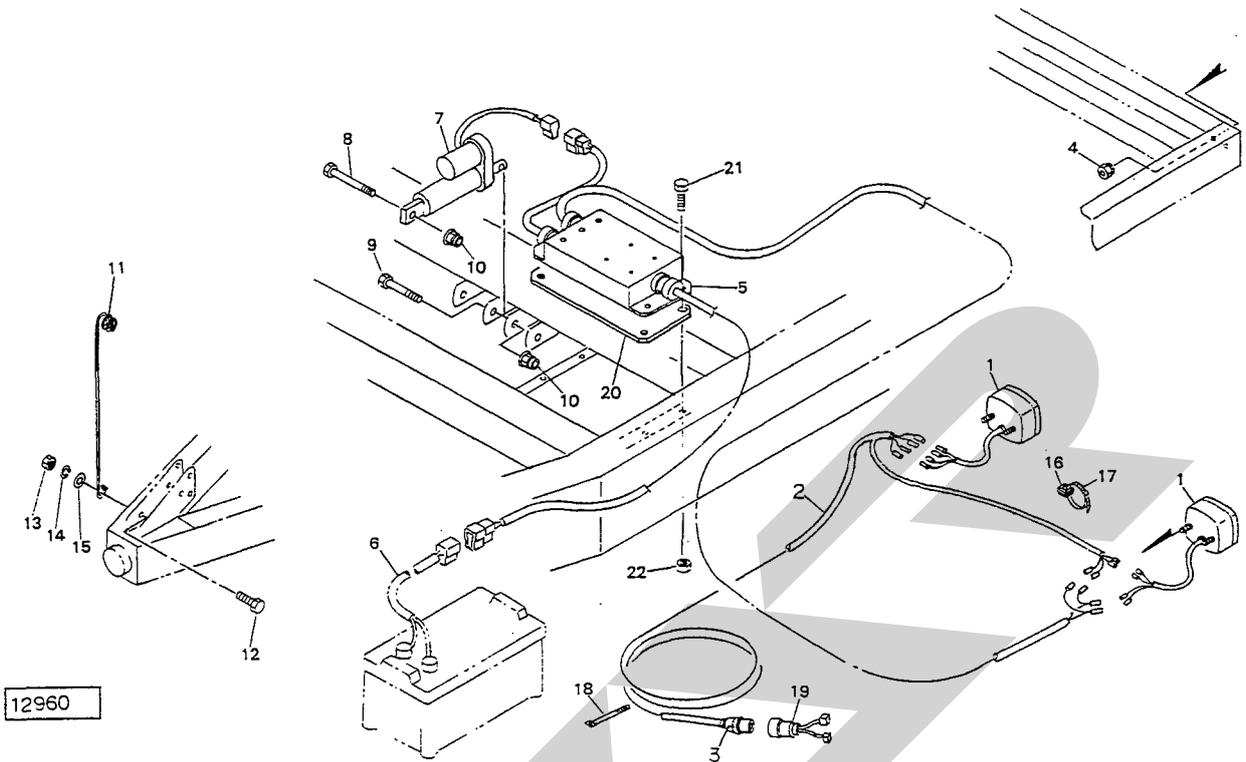
見番号	部品番号	部品名称	個数	見番号	部品番号	部品名称	個数
1	114721	ロッド	1	25	114707	ブレーキハイカンヨウパイプ ; R	1
2	113220	ホルダ	2	27	103875	コンベックスベース	11
3	80820	スプリング	2	28	ILT150	インシュロックタイ;3.5×152	11
4	WSA10G	Sワッシャ ; M10	4				
5	BZ1020G	ボルト ; M10×20 (8.8)	4				
6	114727	ロッド	1				
7	79422	フォークエンド ; M10×40	1				
8	79423	ピン ; 10×40	1				
9	113100	ハンドブレーキレバー	1				
10	BZ0825G	ボルト ; M8×25 (8.8)	1				
11	BZ0820G	ボルト ; M8×20 (8.8)	2				
12	NZ10G	ナット ; M10 (8)	1				
13	NZ08G	ナット ; M8 (8)	2				
14	NN08G	ナイロンナット ; M8	1				
15	WSA08G	Sワッシャ ; M8	2				
16	114702	マスタシリンダ	1				
17	BZ0825G	ボルト ; M8×25 (8.8)	2				
18	WSA08G	Sワッシャ ; M8	2				
19	114703	テーパー	1				
20	BZ0820G	ボルト ; M8×20 (8.8)	1				
21	WSA08G	Sワッシャ ; M8	1				
22	114704	ブレーキハイカンヨウパイプ	1				
23	114705	ブレーキユアツホース	2				
24	114706	ブレーキハイカンヨウパイプ ; L	1				



12962

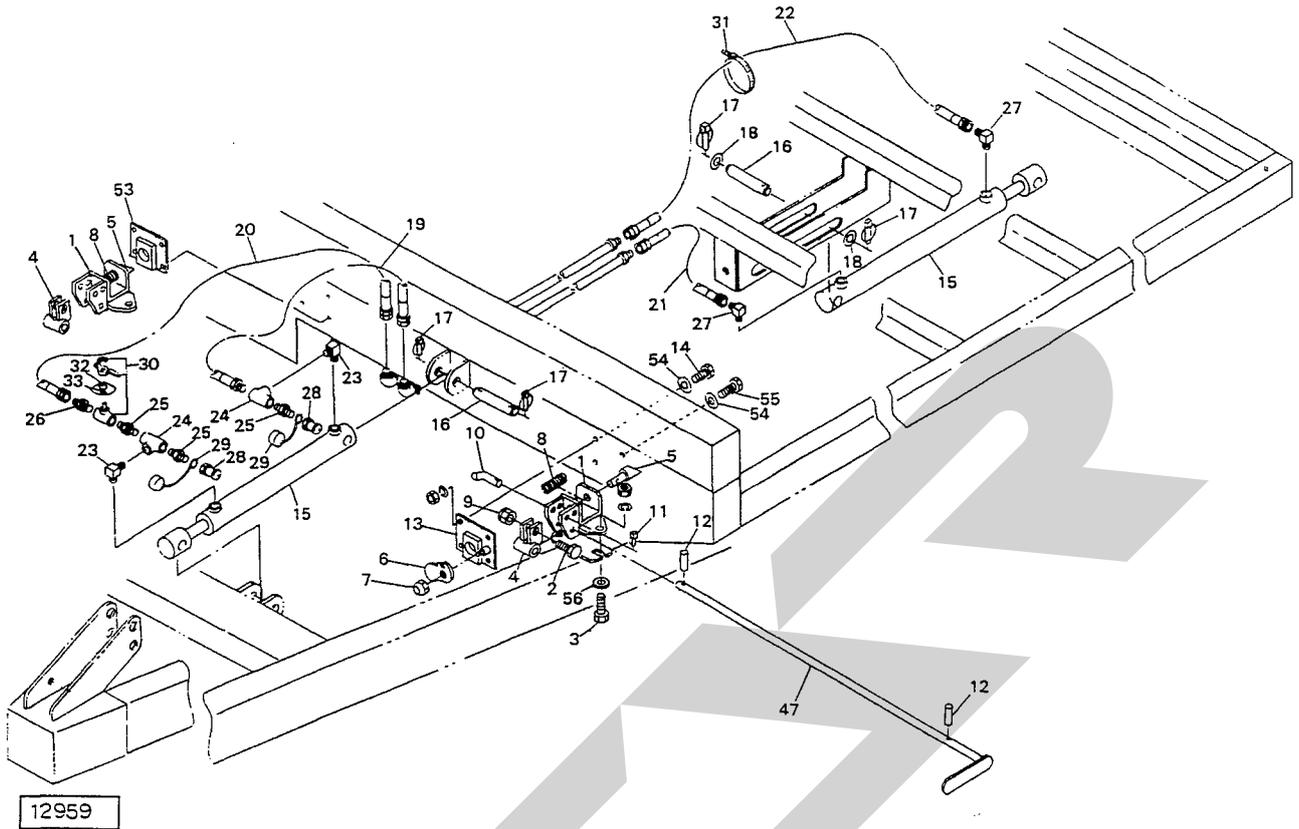
見番号	部品番号	部品名称	個	見番号	部品番号	部品名称	個	
1	114716	シャジク	2	32	107057	ホイール;4.00E×9DT (ハルブ穴付) ㊟33付	☆ 4	
2	BZ1645G	ボルト; M16×45 (8.8)	8		107062	ホイール;5.00E×10DT (ハルブ穴付) ㊟33付	★ 4	
3	NZ16G	ナット; M16 (8)	8			33	107058	ホイール;4.00E×9DT
4	WSA16G	Sワッシャ; M16	8		107063		ホイール;5.00E×10DT	★ /
10	111169	ハブ; A72×85-1	2	34	BZ1225AG	ボルト; M12×25	24	
11	114708	ハブ; B72×85	2	35	114700-1	バックプレート; L	1	
12	J30207	テパローラハアリング; 30207	4	36	114700-2	ホイールシリンダ	2	
13	J30209	テパローラハアリング; 30209	4	37	114700-3	ブレーキシュー	2	
14	D659013	オイルシール; D659013	2	38	114700-4	ブレーキシュー; L	1	
15	D558514	オイルシール; D558514	2	39	114700-5	アジャスタ; L	1	
16	WRA30G	ワッシャ; M30	4	40	114700-6	レバー; L	1	
17	00713	キャッスルナット; M30×1.5	4	41	114700-7	スプリング; L	1	
18	PC5036G	ワリピン; 5×36	4	42	114700-8	スプリングケーブル	2	
19	00416	キャップ; 80	4	43	114700-9	ケーブルガイド	2	
20	107208	ボルト; M16×1.5×55	12	44	114700-10	スプリング	4	
21	00425	ホイールナット; M16×1.5	12	45	114700-11	スプリング	2	
22	114772	ボルト; M16×1.5×40	12	46	114700-12	プレート	2	
23	WSA16G	Sワッシャ; M16	24	47	114700-13	カップ	8	
24	114700	ブレーキASSY; L	1	48	114700-14	ピン	4	
25	114701	ブレーキASSY; R	1	49	114700-15	スプリング	4	
26	BZ1235G	ボルト; M12×35 (8.8)	8	50	114701-1	バックプレート; R	1	
27	NZ12G	ナット; M12	8	51	114701-2	ブレーキシュー; R	1	
28	WSA12G	Sワッシャ; M12	8	52	114701-3	アジャスタ; R	1	
30	55529	タイヤ; 6.00-9-10PR	☆ 4	53	114701-4	レバー; R	1	
	107060	タイヤ; 6.50-10-10PR	★ 4	54	114701-5	スプリング; R	1	
31	55530	チューブ; 6.00-9-10PR	☆ 4					
	107061	チューブ; 6.50-10-10PR	★ 4					

☆TMT4020 ★TMT5020S



12960

見番号	部品番号	部品名称	個数	見番号	部品番号	部品名称	個数
1	112552	リヤランプ; 3F	2				
2	112553	コード; 9500×2700	1				
3	112554	7ポールピン; 12V	1				
4	NP05G	スプリングナット; M5	4				
5	114731	コントロールボックス	1				
6	82879	コード; 1	①23付	1			
7	80974	デンドウシリンダ; 50	1				
8	BZ1280G	ボルト; M12×80 (8.8)	1				
9	BZ1265G	ボルト; M12×65 (8.8)	1				
10	NN12G	ナイロンナット; M12	2				
11	107215	ステー	1				
12	BZ1230G	ボルト; M12×30 (8.8)	1				
13	NZ12G	ナット; M12 (8)	1				
14	WSA12G	Sワッシャ; M12	1				
15	42783	ワッシャ; 12	1				
16	103875	コンベックスベース	27				
17	ILT150	インシュロックタイ; 3.5×152	29				
18	ILT300	インシュロックタイ; 4.8×301	1				
19	113717	チュウカンハーネス	1				
20	114726	プレート	1				
21	BZ0616G	ボルト; M6×16 (8.8)	4				
22	NP06G	スプリングナット; M6	4				
23	FU30A	ヒューズ; 30A	1				



見番号	部品番号	部品名称	個	見番号	部品番号	部品名称	個
1	111123	ブラケット	2	27	YL40	エルボ ; PT1/2×PF1/2	2
2	BZ0845G	ボルト ; M8×45	2	28	CLF30M	カプラ (オス) ; 3/8	2
3	BZ1650AG	ボルト ; M16×50 (8.8)	4	29	00776	カプラキャップ ; 3/8	2
4	111125	ブラケット	2	30	114789	ストップバルブ ; 3/8	1
5	111120	ピン	2	31	ILT50R	インシュロック ; T50R	2
6	111121	プレート	1	32	109838	プレート	1
7	NN12G	ナイロンナット ; M12	1	33	107296	ラベル ; カイ	1
8	111484	スプリング	2				
9	NN08G	ナイロンナット ; M8	2	47	111196	ロッド	1
10	107069	ピン ; φ20	1				
11	00738	リンチピン ; 6	1	53	111152	ブラケット ; R	1
12	PS8032	スプリングピン ; 8×32	2	54	42783	ワッシャ ; 12	8
13	111122	ブラケット ; L	1	55	BZ1240AG	ボルト ; M12×40 (8.8)	1
14	BZ1235AG	ボルト ; M12×35 (8.8)	7	56	00761	ワッシャ ; 16	4
15	107119	シリンダ ; CWP50×435×650	2				
16	107120	ピン ; φ25	4				
17	00738	リンチピン ; 6	8				
18	WRA24G	ワッシャ ; M24	2				
19	107121	ユアツホース ; 1/2×400	1				
20	107122	ユアツホース ; 1/2×750	1				
21	102523	ユアツホース ; 1/2×1600	1				
22	107123	ユアツホース ; 1/2×2000	1				
23	KLA40	エルボ ; PT1/2	2				
24	KT40	ティー ; PT1/2	2				
25	KN4030	ニップル ; PT1/2×PT3/8	3				
26	YNP3040	ニップル ; PT3/8×PF1/2	1				

SFAA

調 整

S-970805A

本 社	066	千歳市上長都1061番地2 TEL 0123-26-1123 FAX 0123-26-2412
千歳営業所	066	千歳市上長都1061番地2 TEL 0123-22-5131 FAX 0123-26-2035
旭川営業所	070	旭川市神楽4条9丁目3番31号 TEL 0166-61-6131 FAX 0166-62-8985
豊富出張所	098-41	天塩郡豊富町字上サロベツ1191番地 TEL 0162-82-1932 FAX 0162-82-1696
帯広営業所	080-24	帯広市西22条北1丁目12番地 TEL 0155-37-3080 FAX 0155-37-5187
北見出張所	090	北見市小泉302 TEL 0157-24-3880 FAX 0157-61-1344
中標津営業所	086-11	標津郡中標津町北町2丁目16番2 TEL 01537-2-2624 FAX 01537-3-2540
花巻営業所	025-03	岩手県花巻市二枚橋第三地割333-1 TEL 0198-26-5741 FAX 0198-26-5746
仙台営業所	985	宮城県多賀城市町前2丁目4番27号 TEL 022-367-4573 FAX 022-367-4846
小山営業所	307-02	栃木県小山市梁2512-1 TEL 0285-49-1500 FAX 0285-49-1560
名古屋営業所	480-01	愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字南屋敷191 TEL 0587-93-6888 FAX 0587-93-5416
松本出張所	399	長野県松本市大字笹賀5824-5 TEL 0263-26-5731 FAX 0263-26-5761
岡山営業所	700	岡山県岡山市下中野704-103 TEL 086-243-1147 FAX 086-243-1269
熊本営業所	862	熊本県熊本市長嶺南1丁目2番1号 TEL 096-381-7222 FAX 096-384-3525
都城営業所	885	宮崎県都城市都北町3537-1 TEL 0986-38-1045 FAX 0986-38-4644